

集落営農組織の経営多角化・高度化に向けた解説書「集落営農組織の現状と展開方向」

【1 成果の概要】

集落営農組織の経営多角化・高度化に向けた解説書として、「**集落営農組織の現状と展開方向**」を作成しました(右下写真、A4版 203 ページ、4 章構成)。

【2 主な内容】

岩手県の集落営農組織の現状と課題

平成19年度に経営所得安定対策に加入した全377集落営農組織を対象としたアンケート及び申請書等の調査から、**岩手県の集落営農組織の現状と課題**について分析しました。

多くの集落営農組織では、「構成員個々が、自ら所有する機械を使い所有水田の作業を行っている」など、**個別経営の営農形態を踏襲したまま、経理事務のみを一元化した形式で運営**されている。このため、**組織化によるコスト削減・省力化効果が現れず、組織の維持や経営展開は難しい**状況。



今後、法人化や経営基盤の確立を進めるにあたっては、集落農家の**話し合い**の場をもち、集落営農を実施する意義が理解されるよう**意識改革**を図り、**目指すべき方向を明確化・共有化**することが喫緊の課題。

岩手県内・外の集落営農組織の取組み事例

県内の集落営農組織 14 事例、経営多角化に取り組む全国的な先進集落営農 4 事例について、これまでの取組経過、現状と課題、今後の展開方向等について詳しく整理しました。

集落営農組織の経営展開方向 - 特に経営多角化について -

アンケート及び事例調査結果等をもとに、**集落営農組織の発展段階別に生じる課題と対応策**を整理しました。

また、米価低迷下において経営の維持発展に欠かすことのできない、**園芸品目の導入や加工・販売等といった経営多角化に向けた取組み方策**について類型別に提案しました。

今後、**約半数の集落営農組織が園芸・加工・販売等の経営多角化を検討**。



集落営農組織における多角化部門の導入方式を、以下のように分類するとともに、**類型毎の特徴、適応地域・経営、導入に適する品目、導入・定着のポイント**などを整理しました。

園芸導入(水平的多角化)の類型化
経営一体型 部門文化型 経営成果評価型 個別経営専念型

加工・販売(垂直的多角化)の類型化
地域経営資源活用型 食産業連携型 外部人材・ノウハウ導入型

【4 活用場面】

集落営農の代表者や農協・普及センター等指導機関等で、集落営農の組織化や法人化、経営多角化等を推進する際に大いに参考になります。

【3 入手方法】

本書は、地方振興局、普及センター、農協、市町村等に配布しています。

原稿ファイルは、**岩手県農業研究センターのHPからダウンロード**できます。



写真 作成した解説書